

御料私領
一人數拾五万三千三百九拾七人

高貳拾五万九千三百五拾三石餘
美作國

内 八万五千八百八拾八人
男
女 ○ 中略
弘化三四年
諸國人數調略 ○ 中

御料私領
一人數拾六万五千四百六拾八人

高貳拾六万貳千九拾九石餘
美作國

内 八万七千六百九拾八人
男
女 ○ 中略
七万七千七百七拾八人

〔人國記〕美作國

風俗

美作國之風俗ハ、百人ガ九十人ハ萬事之作法卑劣ニ而、欲心深ク、譬バ借物ヲ而夫ヲ返納セズ而、手柄之様ニ覺ル風儀ニ而、片意地強ク、我ハ人ニマサラン事ヲ思ヒ、過チ有テモ夫ニ教訓ヲ加ル人アレバ、却而夫ヲ邪智ヲ以テ、過チ無ガ如クニ云ナシ、似タル事ナレバ、我ガ過チヲ人ノ過チノヤウニ仕オシテ、我ガ意地ヲ可立トスル事、上下皆是風俗也、然ドモ侍十人ノ内三四人ハ心掛如形ノ人モ有、奥意ニハ變ジ安キ所モアルナレバ、頼モシカラザル所アリトイヘドモ、石州ニハマサレリ、

名所

〔日本鹿子 十二〕同國○美作中名所之部

久米更山○中略 宇那提森 眞島○中略 滲森 鹽垂山 勝間田池 増田池 此外舊記にのす

る名所ありといへども、在所不分明、

〔古今和歌集 二十〕大歌所御歌 〔かへしもの、歌〕

美作やくめのさら山さらくにわが名はたてじ萬代迄に

これは水の尾の御べの美作國の歌

〔増鏡 十九〕のさら山○元弘やはひ○元弘のはじめの七日に、宮こをいでさせ給○後醍醐いふ所こえさせ給ふとて、